

+++++

モンゴル 3 回目の思い

動物応用科学科 4年 大津綾乃

モンゴルは雄大で繊細な、とてもすばらしい国だと思います。今回そのモンゴルに調査へ行き、私は特に 2 つのことについて考えました。

1 つ目は言葉・コミュニケーションについてです。モンゴルはもちろんモンゴル語が公用語なので、日本語はほとんど通じません。通訳のジャガーさんはいましたが、ジャガーさんが近くにいるときには、モンゴル語の会話帳を片手にコミュニケーションをとらなくてはなりません。ブルガンでは調査後も時間に余裕があったためスレンさんや遊びに来ていた女の子達と話す機会が多く、身振り手振りを交えて一生懸命話しました。伝えたいことが中々伝わらずにもどかしい気持ちになることもありました。それがうまく伝えられたとき、相手の伝えたいことがわかったときにとっても嬉しくなりました。日本を離れることがなければこんな気持ちは感じることはできません。今回、言葉が伝わらないもどかしさと伝わったときの嬉しさを感じることができて言葉がどんなに大事なもののなのか、自分の気持ちを伝えることの楽しさを実感することができました。また、会話をしていくうちに様々なモンゴル語を教えてもらうことができました。教えてもらうときにはできれば実物があればよいということは今回気づいたことです。これはなんですか？と聞けばその単語を教えてくれるので

す。

もう一つはブルガンとフスタイについてです。去年モンゴルへ行ったときも同じくブルガンとフスタイに行ったのですが、この二箇所は同じモンゴルでもそれぞれに違う魅力があると思います。ブルガンはモンゴルにはあまりない森林があり、軽牧地には様々な花が咲き、楽園のようで、また調査を支えてくださる人の優しさをひしひしと感じられるところなのに対してフスタイは、起伏が激しく山々が連なっていたり、見渡す限り平らな土地が続いたり、いかにも雄大！で、国立公園でもあるためエコツアーなどが充実し、モンゴルにあるのだけれども外国的な雰囲気をもつところだと思います。去年はモンゴルに初めて行き、モンゴルの全てのことに不慣れで緊張していたせいか、モンゴルのブルガンよりも今までに慣れている外国的な雰囲気を持つフスタイのほうがいいな、と内心



思っていました。しかし、今回の調査では、色々なことを見たり考えたりす

る余裕も持てて、もっともっとモンゴルの人たちの優しさや魅力がわかったし、モンゴルの自然や伝統的な部分にひきつけられました。そのことを考えると、今回のブルガンでの様々な体験に私は去年以上の喜びを感じ、フスタイが観光のために大事だとは言え、外国的な雰囲気が入り込んでいるということが少し残念な気さえしてしまいました。私個人の意見としては、できる

だけモンゴルのありのままの暮らしが、いつまでも消えないでいて欲しいと思いました。

今回のモンゴル調査で、もっとモンゴルのことを知りたいと思うことができました。モンゴルは本当に魅力がたくさんある国だと改めて感じました。